

日本遺産を活用した文化観光の推進による 文化財の保存・継承



日本遺産 究極の雪国 とおかまち
スノウリッチ・ストーリーズ

【日本遺産活用推進事業】

ESG活動の促進

Environment (環境) / Social (社会) / Governance (企業統治)

E : 生物多様性の保全

S : フードロス

S : 地方創生

S : 環境保護

S : 移住促進

背景

- ◆十日町市は世界屈指の豪雪地（人口5万人規模では世界一といわれる）
- ◆この地域では縄文時代から雪と戦いながらも、雪を受け入れ、雪を活かし、雪に親しみ、雪に楽しみさえも見出しながら独自の文化を築いてきました。国宝「火焰型土器」や重要有形民俗文化財の「十日町の積雪期用具」や「越後縮の紡績用具」などから、この地で暮らしてきた人々の営みを今に見ることができます。また、美しい棚田や、長い冬を生きるための保存食の文化など、有形・無形の文化財が今も暮らしの中に息づいています。
- ◆こうした豪雪地十日町市の歴史文化をまとめたストーリーは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「日本遺産」に認定されました。

課題

- ◆日本有数の豪雪地帯として雪と共生する独自の文化を育んできましたが、近年では過疎化や高齢化、流通の発展といった社会変化により、生活の中で活用されてきた重要な食文化や文化財が消滅の危機に瀕しています。
- ◆建造物や屋外にある有形の文化財は、豪雪の中での維持管理となるため、活用されなくなると維持管理（保存）が極めて困難となります。

目的

- ◆地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「日本遺産」に認定された、ストーリーを活用した文化観光を推進することで、市内の有形・無形の文化財の新たな「活用の機会」を生み出し、滅失を防いでいきます。
- ◆日本遺産を活用した文化観光の推進により、地域経済を活性化することで、文化財の保存・継承に繋げる好循環を生み出します。



棚田は維持管理が困難だが生物多様性を守るために重要な役割を果たしている



流通の発展等により長い冬を乗り切るためのフードロスの少ない食文化も失われつつある

事業内容

- ◆十日町市の日本遺産『究極の雪国とおかまち ー真説！豪雪地ものがたりー』と『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』を軸に、雪国の文化に触れる文化観光を推進します。
- ◆日本遺産の構成文化財について所有者・管理者や民間事業者等との連携により、その魅力を生かした活用を進めます
- ◆市内の事業者による日本遺産を活用した商品や体験の開発・販売を支援します。日本遺産そのものの魅力や文化を体験できるコンテンツの国内外への情報発信を行います。



農舎を棚田の農業を紹介する施設として改修

寄附金の活用方法

- ◆文化観光施設の魅力・機能・利便性向上
- ◆移動の利便性向上
- ◆誘客促進
- ◆体験コンテンツ・旅行商品開発
- ◆普及啓発
- ◆文化財の保存継承 に活用させていただきます。

企業様に期待すること

- ◆企業版ふるさと納税によるご支援
- ◆企業様のノウハウや技術を生かした文化財の活用や情報発信、誘客、周遊促進等、文化観光の推進に係るご支援

企業様のメリット

1. SDGs・社会貢献企業としてのPR（**企業イメージの向上**）
2. 企業の「**ESGスコア**」の獲得（見込み）
3. 十日町市公式ホームページでのご紹介
4. 市長からの感謝状（郵送）
5. 企業版ふるさと納税を活用した事業で、**税負担が軽減**
6. ESG活動レポートを交付

最終目標

「**雪**と生きる。**大地**に遊ぶ。**未来**を創造するまち とおかまち」の**実現**を目指します

担当課・連絡先

新潟県十日町市 産業観光部 文化観光課 文化観光推進係

◆Tel : 025-755-5133 (係直通) ◆FAX : 025-757-2285

◆mail : t-bunka-kanko@city.tokamachi.lg.jp

